

R. シューマン 晩年の傑作

ヴァイオリン・ソナタ
について考える

2024/6/8(土)

14:00~16:00

講師◆小林 美恵 (ピアノ:秋場敬浩)

受講料◆3,300円 定員◆50名

会場◆学園創立50周年記念館ホール

©Akira Muto

内容

ドイツ・ロマン派を代表する作曲家の一人であるR. シューマン(1810-1856)。ピアノ曲や歌曲の作曲家として知られていますが、ヴァイオリン曲でも傑作を残しています。シューマンが本格的に室内楽曲に取り組んだのは比較的遅く、ヴァイオリン・ソナタ第1番、第2番は1851年にほぼ続けて作曲されました。1853年のヴァイオリン協奏曲や幻想曲は殆ど最後の作品であり、亡くなる直前までパガニーニのカプリスのピアノ伴奏付けをしていました。本講座では、ヴァイオリン・ソナタ第1番、第2番の実演を聴いていただきながら、シューマンのヴァイオリンに対する思いはどのようなものだったかを、一緒に探っていきましょう。

♪ 講師紹介 小林 美恵 (ヴァイオリン/昭和音楽大学客員教授) Mie Kobayashi

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学を首席で卒業。在学中に安宅賞、福島賞を受賞。1990年ロン＝ティボー国際コンクールヴァイオリン部門で日本人として初めて優勝。以来、日本を代表するヴァイオリニストとして活躍。2018年からHakuju Hallにて全6回のリサイタルシリーズを行い好評を博した。使用楽器は昭和音楽大学所有1734年製ストラディヴァリウス。現在、昭和音楽大学客員教授。愛知県立芸術大学でも後進の指導にあたっている。 <http://miekobayashi.com/>

♪ 上記以外にも楽しい講座を沢山ご用意しております。お気軽にお問合せ下さい。♪

お問合わせ
お申込み先

東邦音楽大学エクステンションセンター

〒112-0012 東京都文京区大塚4-46-9 Tel.03-3946-9667 Fax.03-3946-2455 <https://www.toho-music.ac.jp/>